

ELIMINATE THE NEGLECTED

NTDs Youth

Annual Report
2024.4 - 2025.3



NTDs Youth
Organization

NTDs Youthの会 代表理事
轟木 亮太

平素より、一般社団法人NTDs Youthの会の活動に温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私たちが取り組んでいる顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases, NTDs）は、21の疾患群から成り立っています。2010年にはNTDsへの介入を必要とする人口は21億9,000万人にのぼりましたが、2024年には14億9,500万人へと減少しました。世界は着実に前進しています。この流れをさらに加速させ、「誰ひとり取り残さない未来」を実現していかなければなりません。

当団体は、2023年4月に任意団体としてスタートし、活動開始から丸2年目を迎えました。3名の理事から始まった活動は着実に広がり、現在は4つの事業部と4つのバックオフィス体制になりました。また、WHOアフリカ地域事務局ESPENチームとの連携やドイツの熱帯医学会での登壇などの国際会議への参加を通じ、世界とつながり、学び、挑戦する機会にも恵まれた一年でした。

「Youthの声で世界を変えたい！」という願いは、この一年で、「Youthの力で世界を変えられる！」という確信へと変わりました。この想いは、私ひとりではなく、理事、正会員、インターンをはじめ、

すべてのメンバーが心から抱いているものです。私たちは、若さと情熱に満ちたチームでありながら、まだまだ未熟な部分も多くあります。これまで産官学民の多くの皆様から賜ったご助言とご支援に、改めて深く感謝申し上げます。

NTDsは、一度制圧されれば、社会的立場に関係なく、すべての人がその影響から解放される疾患です。私たちは、「私たちの世代でこの課題に終止符を打つ」ことを目指し、国内外の仲間たちと手を取り合いながら、さらなる前進に取り組んでまいります。そして、未来を担う世代へ、NTDsのない世界を引き継ぐ責任を胸に、今できる一步一步に誠実に向き合ってまいります。引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2025年4月
一般社団法人NTDs Youthの会
代表理事 轟木 亮太

Voice for Change

Voice for Change

新生！NTDs Youthの会

2024年度活動報告

人事部

広報部

アドボカシー事業部

その他事業部

第二回NTDコンテスト

学会参加報告

開催イベント報告

2025年度の活動予定

新生！NTDs Youthの会

NTDs Youthは、2024年8月に組織体制を一新し、新たなステージへと歩みを進めました。柔軟かつ多様な関わり方を可能にするための制度整備を行い、これまで以上に多くの若者が活動に参画できる基盤を構築しました。

(1) 多様な参加形態の導入

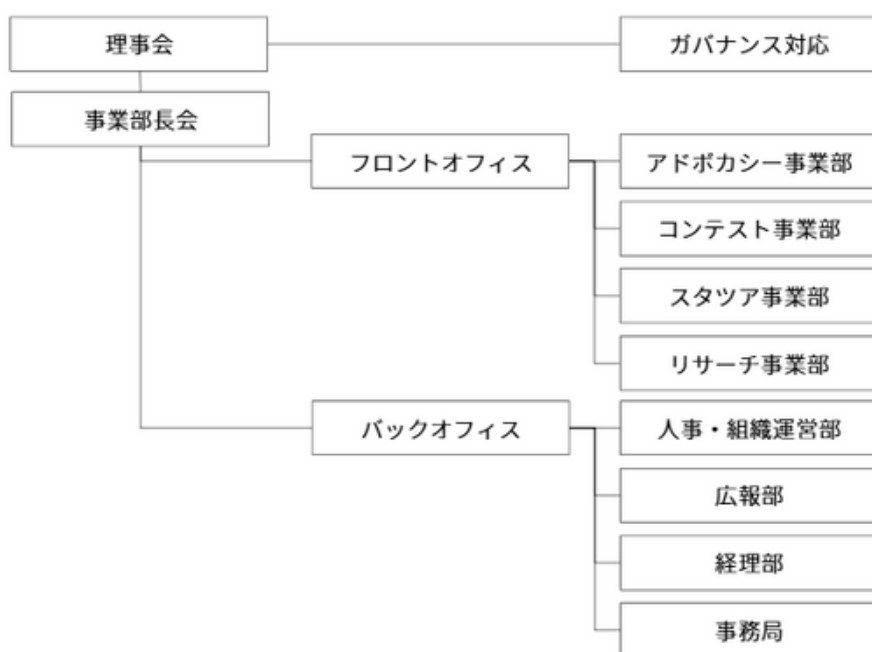
従来の運営メンバーに加え、正会員制度およびインターン制度を新たに設置。NTDsに関心のある多様な層が、それぞれの関心やスキルに応じて参画できる環境を整えました。これにより、運営やプロジェクトのリーダーシップを担う「運営委員会」と、それを支える広範なメンバー層が相互に補完し合う体制が実現しました。特にインターン制度ではプロジェクトリーダーをメンターとした活動フォローアップにも力を入れており、2024年度で3名のインターン受け入れを行いました。

(2) 運営委員会の新体制が確立

より効率的で戦略的な活動を目指し、組織内の役割分担を明確化しました（表1参照）。各メンバーが自身の役割を明確に認識しながら取り組める体制となったことで、プロジェクトの推進力と柔軟性が高まりました。

また、月に一度開催される運営委員会では、各事業部からの活動報告を共有するとともに、他事業部への相談や協力依頼も活発に行われており、チーム全体としての連携と成長が加速しています。こうした体制により、メンバー一人ひとりがより主体的に、かつ連携しながら活動できる環境が整いつつあります。

NTDs Youthの会は、2025年3月時点で計15名のメンバーにより構成されており、理事7名、運営委員3名、インターン2名、非常勤メンバー3名が中核となって活動を推進しています。所属バックグラウンドにおいても多様性があり、医学生6名、看護学生2名、医師2名、獣医学生1名、その他分野のメンバー4名と、様々な専



門性をもつ若者が連携し、それぞれの視点からNTD対策に貢献しています。多種多様なメンバーが一丸となって活動することで、課題への多角的なアプローチが可能となり、組織としての柔軟性と創造性が高まっています。

今後も、さらに多くの方々に弊会の活動を知っていただき、領域や所属を超えた多様な仲間の参画を積極的に受け入れていく所存です。NTDsというグローバルヘルスの課題に対し、日本から発信・連携するプラットフォームとして、引き続き開かれた組織づくりを進めてまいります。

表1 2025年3月時点での新体制

8月

NTDs Youthの会 新体制が始動



9月

アドボカシー事業部
矢倉克夫 財務副大臣（当時）
への提言

CTM2024への参加（ドイツ）

NNN2024への参加（マレーシア）

11月

アドボカシー事業部
「なぜ顧みられない熱帯病を制圧/
制御する必要があるか」開催

Joint Congress on Global
Health 2024 への参加（沖縄）

12月

アドボカシー事業部
WHO ESPEN Team Lead
Dr. Elizabeth Juma の来日支援



トルコスタディツアー事業部
トルコのプロジェクトサイトへ訪問

1月

コンテスト事業部
第二回NTDコンテストの実施
世界NTDの日ウェビナーの開催

2024年度 活動報告

人事部

事業部長 近藤裕哉

2024年度、人事部は組織全体の運営効率と人材活用の最適化を目指し、大幅な体制刷新を行った。その中心的施策として、各事業部に事業部長を設置し、ミッションシートを活用したタスク管理と業務の可視化を導入した。これにより、事業部間での役割分担が明確になり、進捗確認や支援要請が円滑に行えるようになった。各事業部長は自らの部門の中核として機能し、月1回の運営委員会において全体のタスク進行状況を報告、人事部はその場のファシリテーターとして横断的な課題解決と意見調整に尽力した。

また、人的資源の持続的な拡充を視野に入れたインターン制度を新たに整備した。各事業部からの採用申請に応じて人事部が募集から選考、採用、育成までを一貫して担当する体制を構築し、2025年3月までに3名のインターンを採用。これらのインターンは短期間での成長を遂げ、数名はプロジェクトメンバーとしてその後も組織活動に継続的に貢献している。

▼ エンゲージメントサーベイ



2025年度は、構成員が成長と貢献を実感できる「達成感ある運営体制」の確立を目指す。やりがいと責任を両立する役割設計を進め、事業部間・世代間交流を促進し、学びと挑戦を支える文化を醸成する。活動拡充に伴い、インターン制度の拡張やタスク分担最適化を通じ、柔軟な人員体制を支援し、持続的成長を図る。具体的には、組織状態を可視化するエンゲージメントサーベイを導入し、構成員の満足度や課題を定期把握する(左画像・数値は参考)。また、インターンやプロジェクトメンバーの成長を促すための「棚卸しシート」を導入し、成果と学びを整理する仕組みを整備する。

広報部は、NTDs Youthの会の広報活動およびNTDsの認知度向上を目的とした広報体制の強化を本格的に開始した。8月には、組織としての統一かつ持続可能な広報運用のため、SNS使用ガイドラインを策定。これに基づき、InstagramおよびX(旧Twitter)を中心としたSNS運用を開始した。Instagramは主に日本国内向けの発信媒体として活用し、2024年8月から2025年3月の約7か月間で19,200view、4,100アカウントへのリーチを達成した。一方、Xは主に海外向けの情報発信を担い、国際的な認知向上の一助となっている。両アカウントともにフォロワー数が100名を超え、着実に関心層との接点を広げつつある。組織内の学習促進およびNTD理解の底上げを目的とした「NTD検定」も新たに作成した。

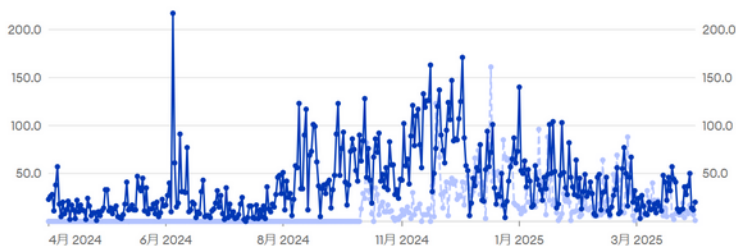
2025年度は音声メディアであるPodcastの配信やイベント広報に特化したPeatixの運用も開始予定であり、多面的な情報流通チャネルの整備が進行中である。ホームページは昨年度で14,000viewを達成したが、より良いデザイン、および国内外問わず閲覧しやすい仕様に移行中である。多岐にわたる広報媒体の柔軟な活動のため、人員を増員しより属人的でない運営体制の構築を目指す。

2024年度 活動報告

広報部

事業部長 上杉優佳

◀ 2024年度のホームページ閲覧数。8月を境に閲覧数の増加が確認できる。



(1) 事業部の目標

アドボカシー事業部は、日本におけるNTDsの認知度向上および政策的優先度の向上を目的として、政府機関、国際機関、市民社会に対する多面的な働きかけを行っている。特に、WHOアフリカ地域事務局が展開するESPEN（顧みられない熱帯病の制圧のための拡大特別プロジェクト）への支援強化を中核に据え、政策提言や関係構築を推進する。

日本が国際保健において果たすべき責任と可能性を明確にし、厚生労働省や外務省などとの連携を深めるとともに、日本政府をはじめとする日本からの国際保健への貢献の可視化、メディア発信を通じて社会全体へのアプローチを図っている。ユース主体の団体として、次世代の国際保健人材を育成しつつ、持続可能なアドボカシーの基盤を確立することが本事業部の根幹にある。

(2) 2024年度の活動

2024年度において、アドボカシー事業部は、政府機関、国会議員、国際機関、メディアなど、多様なステークホルダーに対し、NTDsに関する積極的かつ戦略的な働きかけを展開した。政策決定者との面談は延べ57件にのぼり、官僚、国会議員を中心にアプローチを実施した。加藤勝信元厚生労働大臣、矢倉克夫財務副大臣をはじめとする政策決定者への直接の提言も実現した。また、厚生労働省大臣官房国際課および外務省国際協力局国際保健戦略官室との継続的な連携も進めてきた。

特筆すべき成果として、ESPENとの国際連携の進展がある。ESPENチームの来日時に向けた支援を行い、日本との連携強化に貢献した。これにより、ESPENの実績と意義を日本の政策決定者に対して直接訴える機会を共に創出し、アフリカにおけるNTD対策に対する関心の喚起を成功させた。また、拠出額の推移を把握・可視化する資料を作成した。関連は不明であるが、厚生労働省からWHOを通して拠出するNTD関連の任意拠出金が増加傾向に転じたことも大きな前進である。



さらに、TICAD市民社会グループに参画するほか、官・産・学・民の国内関係者との定期的な意見交換を通じ、NTDsを日本の国際保健政策や市民社会の主要議題として定着させる動きも進展している。本年度の活動を通じて、NTDsに対する社会的関心と政策的優先度の向上に寄与できたことを実感した一年となった。

(3) 2025年度の活動予定

2025年度は、以下の4本柱を軸にアドボカシー活動を展開する。

① TICAD9に向けた世論の醸成

2025年は第9回アフリカ開発会議

（TICAD9）が開催される年である。

NTDsの疾病負担の39%集中しているアフリカでの対策推進のため、NTDsに関わるパートナーと共に世論を醸成していく。

② 政策決定者との定期的な対話

厚生労働省や外務省などの中央省庁や国際保健分野に関心のある国会議員などと定期的な対話を行う。特に、日本がこれまでに行なってきた貢献を国民へ分かりやすく伝え、理解を深める取り組みを進めたい。

2024年度
活動報告

アドボカシー事業部

事業部長 轟木亮太

▼2024年度開催のPolicyPitchにてNTD対策の重要性を訴えた。



2024年度
活動報告

その他事業部

各事業の業績を報告いたします。
塵も積もらせて山とする。



トルコスタディツアー事業部 (事業部長 高泉優)

NTDsの現場へ！ 研究への参画が本格始動

トルコスタディツアー事業部は、東京大学大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻の三條場千寿准教授が中心となって進めるSATREPSプロジェクト「トルコにおける顧みられない熱帯病、特に節足動物媒介性感染症制御に向けたワンヘルズの展開」の参画の機会を得た。



2024年12月に実施された訪問では、保健省、研究機関、ならびにリーシュマニア症に関する専門ラボを訪問し、現地研究者や行政官との意見交換を行った。これにより、現地でのNTD対策や調査研究の実態を把握し、日本からの貢献の可能性や今後の学術連携のあり方について多くの示唆を得た。

ツアーの成果を受け、より継続的かつ体系的に研究ベースでの関与を強化するため、2025年度よりリサーチ事業部を立ち上げる。今後は国内外の学会発表への挑戦など、研究と実践を架橋する取り組みを推進していく予定である。単なる視察にとどまらず、具体的な研究協働を視野に入れた本スタディツアーは、NTDs Youthの会の活動領域の拡大と深度化の象徴的な一歩となった。



スタディツアー事業部 (事業部長 無相遊月)

日本の学生がNTDsの現場に 触れる機会を創出

当初予定されていたラオスへのスタディツアーは、安全性や実施可能性を鑑みてオンライン形式に変更された。2日間のプログラムでは、グローバルヘルス専門家とのキャリア交流、ラオスにおけるNTDsに関する課題解決型ワークショップを実施。結果として30名の参加があり、7名の新規正会員が加入する成果を上げた。



2025年度は渡航型スタディツアーの実現に向けて、本格的な準備を進める。



ガバナンス事業部 (事業部長 高泉優)

ガバナンス事業部は、団体の透明性と信頼性を高めるための制度整備を推進した。グッドガバナンス認証を取得し、プライバシーポリシーを策定したほか、ハラスメント講習を導入した。これらにより、組織運営の適正性と安心感を担保する枠組みが構築され、持続可能な活動基盤の確立につながった。



経理財務部 (事業部長 轟木亮太)

顧問税理士「税理士法人近未来」のもと、適当に健全な会計処理を行なった。



活動報告書作成部 (事業部長 上杉優佳)

毎月の運営委員会および理事会の内容をもとに、各事業部の2024年度の活動報告、および2025年度の活動予定に関して公開文書を作成した。

第二回NTDsコンテスト

特集

事業部長 富田明澄



今年度も開催！ NTDsコンテスト

2023年度に引き続き、今年度も「顧みられない熱帯病コンテスト」が実施された。本コンテストは、毎年1月30日の「世界NTDの日（World NTD Day）」にあわせて開催された企画である。世界NTDの日は、世界保健機関（WHO）が承認した国際的な記念日であり、NTDs（顧みられない熱帯病）に対する世界的な理解と行動を促す日とされている。NTDsは、主に熱帯・亜熱帯地域で発生する感染症であるが、その多くは開発途上国に限定されるものではない。日本国内でも一部の疾患が現在も確認されており、また日本政府や企業、研究機関も治療薬の開発や製造、研究支援など多方面で国際的な貢献を行っている。

応募対象は、中学・高校・大学・大学院・高等専門学校・専門学校・放送大学などの教育機関に所属する日本在住の生徒・学生で、年齢制限は設けられなかった。個人または最大4名までのチームでの応募が可能で、応募件数にも制限はなかった。応募部門はA部門とB部門

の2種類が設けられた。A部門「わかりやすく伝える部門～NTDsって知っている？～」では、3分以内の動画作品によってNTDsの知識やメッセージを自由な表現で伝えることが求められた。一方、B部門「日本ができることを考える部門～NTDsを制圧するために～」では、日本に住む私たちがNTDsに対してどのように貢献できるかをテーマに、課題の背景や解決策の具体性を盛り込んだ2,000字以内の文章を提出する形式となった。審査会は2025年1月11日に東京都内会場（及びzoom配信）にて行われ、表彰式は2025年1月30日にオンライン形式で開催された。

主催は世界NTDの日・日本実行委員会が担い、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）、特定非営利活動法人SDGs・プロミス・ジャパン（SPJ）、長崎大学熱帯医学研究所および日本顧みられない熱帯病アライアンス（JAGntd）、日本製薬工業協会が実行委員として構成された。後援には新たに外務省・厚生労働省が名を連ね、事務局は弊団体が担当した。その他にも、国内外の多くの医療系学生団体・企業・非営利団体が賛同・協力し、若者の主体的な社会参画を支援する体制が築かれた。

第二回コンテストでは、累計35チーム、56名の応募があった。応募された全作品を対象にまず一次審査が行われ、内容の独自性や表現力、社会的意義などを基準に選考が行われた。一次審査通過作品は、InstagramおよびYouTube上に公開され、SNS上での再生回数や反響も参考指標として活用された。その後、最終審査会にて有識者による評価が実施され、総合的な観点から各賞が決定された。

● 最優秀賞

- ・ A部門：「NTDs - 君は『常識』か？」
/ 日本を安定陸塊にする会
- ・ B部門：「故郷からの学びを胸に：日本住血吸虫症撲滅の教訓とフィリピンでの挑戦」 / 鳥取大学熱帯医学研究会

● U-18特別賞

- ・ A部門：「NTDs - 君は『常識』か？」
/ 日本を安定陸塊にする会
- ・ B部門：「ハンセン病の本当の敵」 / MYST

● GHIT賞「パートナーシップを通じての課題解決」

- ・ 「What is NTDs? - 高校生の私たちからできること」 / シュクレパールズ

● 日本製薬工業協会賞「いっしょに届けたい、くすり」と想い

- ・ 「Neglection Toward Distance」 / るる子

いずれの受賞チームにも、賞状とトロフィー、また副賞として賞金または図書カードが贈られた。

A部門の審査員には、大塚製薬の金子和裕氏、朝日新聞「with Planet」編集長の竹下由佳氏、NTDs Youthの

会より富田明澄氏、東京大学の古瀬祐気氏、ジャーナリストの堀潤氏、GHIT Fundより堀内聡氏などが参加した。B部門の審査員には、GHIT Fundの大畑美菜氏、エーザイ サステナビリティ部の神道美和氏、NTDs Youthの会代表の轟木亮太氏、A部門に引き続き東京大学の古瀬祐気氏などが名を連ねた。

様々な角度からのアプローチ - NTDsをもっと知ってもらうために -

審査会後に実施された参加者アンケートでは、全体として非常に高い満足度が得られた。特に多く寄せられた声としては、「他チームの発表から多様な視点を得られた」「審査員からのフィードバックが具体的に勉強になった」「遠方からもオンラインで参加できた点がありがたかった」といった点が挙げられる。また、「講評タイムを通じて審査員と直接交流できたことが刺激になった」との声も複数あった。

一方で、改善点としては「もっと参加者間での交流ができる場が欲しかった」「演劇部や放送部など、より広範な層に広報してほしい」といった要望が見られた。また、賞や副賞の内容がやや分かりにくかったとの意見もあり、次年度に向けて情報整理の工夫が求められる。さらに、予選で落選したチームにも感謝や労いのメッセージが届くような仕組みがあればより良い、という建設的な提案もあった。



Photos

最終審査会の様子

参加者の中には「他の学生の行動力に刺激を受け、将来的に自分も社会課題に関わりたいという意欲が高まった」という声や、「コンテストを通じて自分の発信に関心を持ってもらえた」「これをきっかけにNTDsを自分なりに調べるようになった」という変化を感じる声も多かった。こうした反応からは、コンテストが単なるイベントにとどまらず、若者の行動変容を促すきっかけになっていることがうかがえる。SNSでの発信も功を奏し、InstagramやYouTubeを活用したSNS審査では、応募作品の再生回数が合計7,376回にのぼり、2,470アカウント以上にリーチした。

第二回顧みられない熱帯病コンテストは、若者の創造性と熱意が光る場であり、関わったすべての人々に学びと刺激を与える機会となった。来年度は、より多くの応募を受け入れる体制の整備、広報戦略の強化を進め、より多様な層が参加しやすくなるよう取り組んでいく予定である。

世界NTDの日ウェビナー開催

世界NTDの日である2025年1月30日、Skin NTDsをテーマとしたウェビナーを開催した。チューレーン大学/クローバーヘルスインターナショナル理事長の四津里英氏、東京大学の三條場千寿氏、琉球大学熱帯医学研究会の酒井郁弥氏、第二回顧みられない熱帯病コンテスト受賞者が登壇し、学び・連携・理解を深める活発な対話型ディスカッションが行われた。

参加者の声

「このコンテストを通して、NTDsは決して看過することのできない、深刻な社会課題であると実感しました。世界中の多くの人が病に苦しみ、貧困への負のスパイラルに陥ることを強いられており、そのことが日本を含む先進国ではほとんど知られていない、顧みられていない現状に強い危機感を抱くようになりました」(中村恵菜 / GHIT賞受賞)

「NTDsはどこか遠い国の話だと心の中で思っていました。しかし調べていくうちに日本では撲滅した住血吸虫症が、もしかしたら再び流行するかも知れないということも知り、全く人ごとではないと気付かされました。私たちの動画を通して、NTDsが『常識』になることを期待しています」(速水優惺 / A部門最優秀賞)

「NTDsについて調べたら、知らない病気ばかりで驚きました。日本では簡単に手に入る薬で治る病気で困っている人がたくさんいることを知り、私が健康でいられることは当たり前ではないと思いました。私の動画で少しでも興味を持ってくれる人が増えてくれたらいいなと思います」(遠藤最 / 日本製薬工業協会賞)

▼ 第二回NTDsコンテストのフライヤー



会議参加報告

2024.9.19 - 9.21

CTM2024

- Conference on Tropical Medicine and Public Health



本大会はドイツで開催された熱帯医学・公衆衛生学会で、初の英語開催として29か国から約500名が参加した。9月19日にはDTG主催の交流会があり、日独両国の研究者や政府関係者がNTD分野での連携について意見交換を行った。JSPSの活動や日独間の奨学金制度も紹介された。

また、9月21日には「なぜNTDsにYouthが関わるべきか」というテーマで弊会とドイツYouth代表による発表が行われ、各国の若者の活動やNTD関連団体の紹介動画も共有され、約60名が参加した。また、10月に実施となったMeeting International NTD Youth Initiativesへのオンライン参加にもつながった。

2024.10.1 - 10.3

NNN Conference 2024



本カンファレンスには、50か国以上（175団体）から400名以上のNTDs（顧みられない熱帯病）関係者が集結した。弊会は、昨年の「NNN Conference 2023」に続き、日本のYouthアドボカシー団体として参加した。

今年のテーマは「Collaboration for Change: Fostering Global Equity and Strengthening Community Engagement in NTDs」で、3日間にわたって、世界中の活動家たちがNTD制圧に向けた有意義な議論と意見交換を行った。最終日には、NTDsに対峙するYouth団体の紹介動画がサプライズ上映され、会場の多くの参加者からYouth活動に対する激励をいただいた。さらに、新たなYouth団体とのネットワークも生まれた。

NTD制圧には、Youthの力が不可欠である。各国での独自活動に加えて、国境を超えたコラボレーションを通じ、Youthの貢献をさらに加速させていく。

2024.11.16 - 11.17

Joint Congress on Global Health 2024



本合同大会は、日本熱帯医学会、日本国際保健医療学会、台湾グローバルヘルス学会による合同学会である。弊会は1日目にワークショップ「Unite Global Youth: Collaborative Approaches to Neglected Tropical Diseases」を企画した。

約60名が参加したワークショップでは、NTDsや活動内容を紹介し、Global Youthとの協力の重要性について議論を行った。また、米国のシャーガス病治療薬をテーマにケースワークを行い、長崎大学の吉岡浩太先生の講演後、参加者による意見交換が実施された。

最後に本大会長の小林潤先生より、NTDsの歴史とYouthの役割に関する激励のお言葉をいただいた。この大会への参加を通じ、NTDsの認知度向上やYouth間の交流が促進されたと感じられた。

イベント実施報告

2024.9.19

「なぜ顧みられない熱帯病を制圧/制御する必要があるか」 -日本におけるNTD支援とパートナーシップの強化



弊会主催のイベントには14名の登壇者と73名の参加者が集まり、NTDs対策におけるパートナーシップの重要性が再確認された。パプアニューギニアやバヌアツにおけるスティグマや集団投薬の課題を通じ、日本国内外での協力強化の必要性が強調された。

若者や政策決定者を巻き込んだ社会的動員の推進が、グローバルネットワーク構築の鍵であるとされ、日本の若者による国際的な支援の重要性も議論された。さらに、日本の成功事例を他国で活用する可能性が期待されている。

定期的な対話と協力がNTDsパートナーシップ強化に不可欠との認識が共有され、知見を集める場の重要性が改めて確認された。

2025年度活動予定

人事部



- ・正会員向けのイベント・機会、インターン枠の創出
- ・海外交流や国内学会発表の機会創出

2025年度は、メンバー一人ひとりが安心して継続的に活動に取り組めるよう、育成・評価・サポート体制の強化を進めます。新メンバーの受け入れやインターン制度の拡充により、多様な人材が活躍できる組織づくりを目指します。また、成長や達成感を感じられる仕組みを整えることで、モチベーションの維持・向上を促します。メンバー間の相互理解を深める機会や、リーダーシップ育成の取り組みも実施予定です。持続可能な運営のために、制度的な土台の強化にも力を入れていきます。

アドボカシー事業部



- ・政策決定者との継続的な意見交換・対談を実施していく
- ・日本政府をはじめ、日本のNTDsに対する取り組みへ国民の理解を高めていく

2025年夏に開催される第9回アフリカ開発会議を見据え、世界のNTDsの疾病負荷の39%が集中しているアフリカにおけるNTD対策の推進を目指します。特に、各国がオーナーシップを持って取り組むことができる持続可能な仕組みを模索していきます。また、日本政府をはじめ、日本による国際保健分野への貢献を国民に理解してもらえるような施策も実施予定です。

広報部



- ・分業体制・新規インターン枠を立ち上げ活動拡大を目指す
- ・SNSを通じたNTD認知度向上活動を継続する
- ・NTDs Youthの会の活動広報に関する有料コンテンツを作成する

団体の発信力をさらに高めるため、Instagram・LINE・ウェブサイトなどの媒体ごとの役割を明確にし、戦略的な広報を展開します。分業体制の整備を進め、メンバー間での連携を円滑にしながら投稿作業の質と効率を両立させます。また、広報マニュアルの整備や定期的な振り返りの実施により、属人的でない運営体制を構築します。活動広報を資金源につなげる仕組みを確立させることで、持続可能な団体活動継続に向け貢献します。

コンテスト事業部



- 中学や高校へ出張授業を通じたNTDsの認知度向上を目指す
- より多くのステークホルダーと結束、協働したコンテストの実現を目指す

2025年度は、これまで以上に広報活動と参加者サポートを強化して、多様な学生層へのアプローチを工夫し、NTDsに関心を持つ新たな層との接点をつくります。また、実行委員会の体制を整備し、運営ノウハウの蓄積や引き継ぎがスムーズに行えるようにします。大会の質を高め、より多くの人々が「NTDsは自分たちの課題でもある」と感じられるような設計を目指します。これを通じて、NTDs解決に向けた若い力の発掘と育成を担います。

スタディツアー事業部



- 柔軟に候補地を検討することで、スタツア現地開催実施を実現する
- 明確な目的と全体スケジュールを早期に整理し、役割分担を徹底する
- 帰国後も継続的な関わりを継続し、参加者の長期的な活動参画を促す

2025年度は、渡航型スタディツアーの実現に向けて、本格的な準備を進めます。訪問先候補との調整、現地の受け入れ体制の確認、参加希望者への情報発信などを計画的に行い、安心・安全かつ有意義な学びの場となるよう尽力します。また、プログラム設計においては現地のニーズや声を重視し、双方向の学びが生まれるよう工夫します。これまでの国内外での活動を土台に、フィールドでの学びを通じて団体の理念を具現化し、参加者が主体的に国際協力やNTDsに関わる契機を創出します。

リサーチ事業部

新設！



- primary surveyの実施、データ解析、対外向けの発表
- 次年度の広報活動へ向けたデータ収集を行う

NTDsをテーマとした調査研究を本格的に実施し、調査設計から学会発表・論文化まで一連のプロセスを遂行することを目指します。また、得られた知見は今後の団体活動にも還元し、他事業部との連携も図ります。リサーチを通じて、根拠に基づいた社会的発信の基盤を構築していきます。

NTDs Youthの会は、「NTDsの認知度向上」「国内外のパートナーとの協力関係の推進」「NTDsの疾病負荷の軽減と貢献の加速」の3つをmissionとし、本年度も活動を継続してまいります。

NTDs Youth Annual Report 2024.4 - 2025.3

Illuminate the Neglected.



Photo taken by Yuuka Uesugi @ Geneva

一般社団法人（非営利型） NTDs Youthの会

NTDs Youthの会は、顧みられない熱帯病(NTDs)の制圧を目標に、認知度拡大活動や政策提言活動を行う一般社団法人です。

所在地

〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目6-1 小森ビル4A

 <https://www.ntds-youth-japan.org/>

 [office\(@\)ntds-youth-japan.org](mailto:office(@)ntds-youth-japan.org)

各種ソーシャルメディア

 @ntds_youth

 @NTDs_Youth

